



建築人

8

2012

昨年二〇一一年六月、遅まきながら、村野藤吾（一八九一〜一九八四年）の戦前の代表作として知られる「宇部市民館（現・宇部市渡辺翁記念会館）」（一九三七年）を初めて訪ねる機会があった。私の所属する美術工芸資料館で予定されていた「第十一回村野藤吾建築設計図面展」（二〇一二年二〜五月開催）の調査と打合せが目的だった。この建物は、地元出身の実業家・渡辺祐策の没後、その功績を後世に伝えるべく、関連会社七社の寄附によって直営で建設され、竣工後に宇部市へ寄贈されたものだ。

竣工した市民館はさぞかし清新な印象を与えたに違いない。当時出版された『渡辺翁記念会館図集』（国際建築協会一九三七年）には、「本建築はインターナショナルタイプにして、自由模作によって出来上がった曲線流暢なる飛行機型の平面を有し、骨格豪壮、容姿端麗の堂々たる殿堂」であり、村野が「欧米に渡りて考究見聞せられし近代建築の精神を広く蒐集して以て豊富な経験により氏独特の技巧を見せた会心の作である」と紹介されている。一方、『新建築』（一九三七年六月号）には、公立ではなく、企業からの寄贈という建設の経緯と設計者・村野の思いが働いた結果なのだろうか、当時としては珍しい「市民」を入れた、「宇部市民館」という建物名で発表された。

だが、時あたかも日中戦争の直前である。そのため、市民館は、その後の宇部市を襲った過酷な運命を目標することになる。『宇部地方史研究』第三七・三八合併号、二〇一〇年）に掲載された市民の証言によれば、それは次のような事象だった。終戦直前の一九四五年七月、宇部市は、「米軍の空襲で工場地帯は爆弾攻撃を受け、

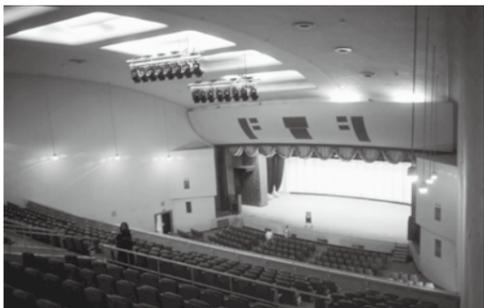
中心市街地には焼夷弾の投下で市役所、警察、百貨店をはじめ多くの民家が焼失し、甚大な被害を被った」。しかし、幸いなことに、市民館は外観が「大きく傷ついた」ものの難を逃れた。そして、「周囲一面焼野原の中、堂々とそびえ建っている」その「威容」は、「実に頼もしく、敗戦で虚脱状態の市民を大いに勇気づけてくれた」という。戦後は、村野の最晩年に至るまで、村野事務所によって改修と増築工事が繰り返されながらも、原型を良く保ち、今も独特

記憶の建築 松隈 洋

宇部市民館 1937年 村野藤吾の記念碑的な出発点



建物正面に設けられた人間のための広場



2階から見た客席 照明の描く光が美しい

に移動させることによって、建物の前面に内部とフラットにつながる人間のための広場を設けたこと、そして、水平連続窓をもつ自立する曲面状の壁を建物の正面に建て、間に階段を収めつつ、ロビー空間と分節することによって、軽快でヒューマンな外観を実現したことなど、村野の構成的で自在な建築デザインの方法が見えてきた。けれども、それ以上に、改めて気づかされたのは、宇部は村野藤吾にとって大変重要な意味をもつ工業都市であり、宇部に

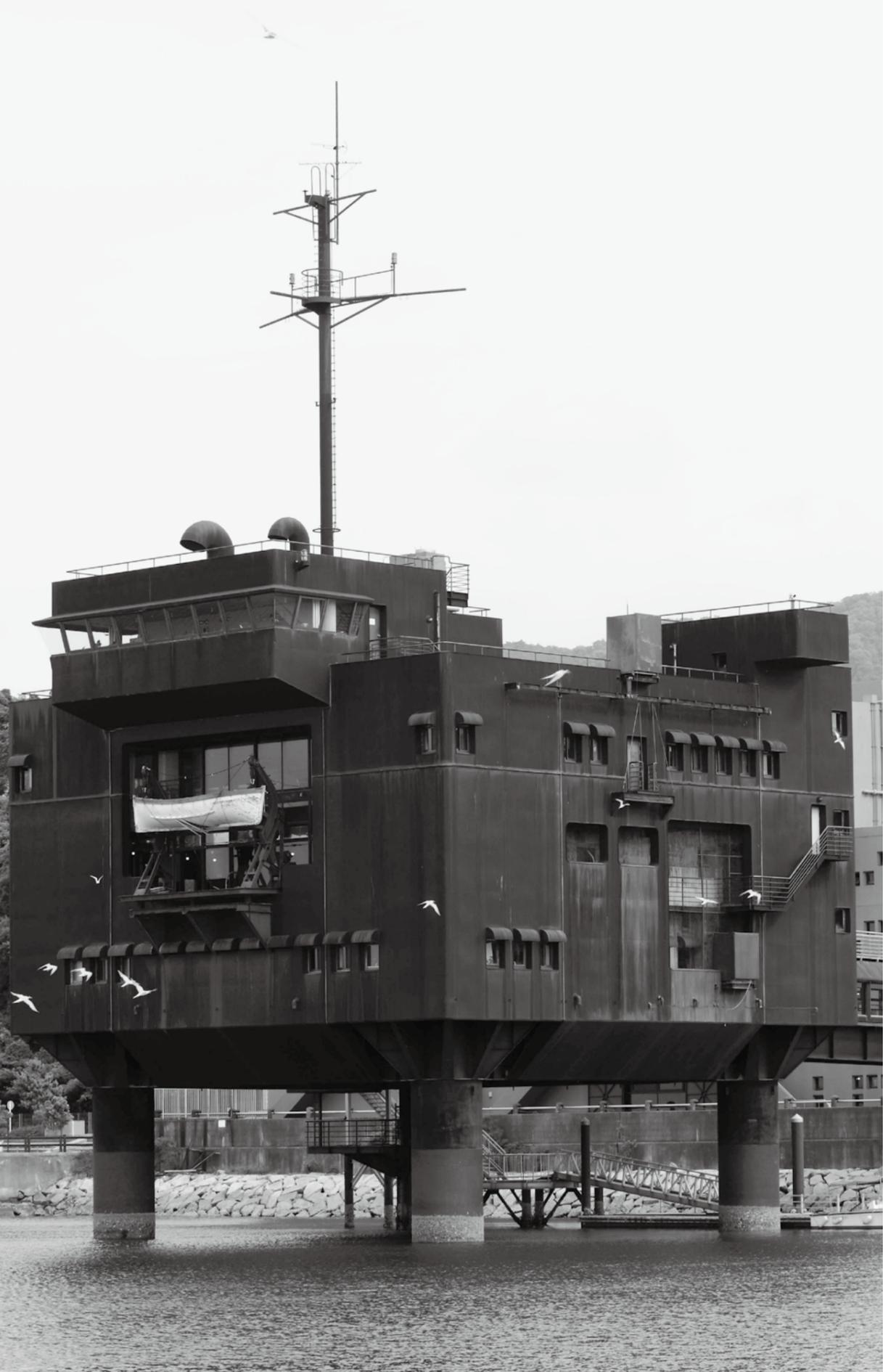
な存在感を放って大切に使われている。また、二〇〇五年には、村野の建築としては初めて国の重要文化財にも指定された。今回の展覧会では、この市民館についても四十九点の図面が新たに目つき、設計のプロセスを推測できる発見があった。たとえば、ル・コルビュジェの「国際連盟会館コンペ案」や、大型客船の造形にヒントを得て、しかもそれを乗り越えようとする試みが施されていること、また、初期案では正面に置かれていた車寄せを建物の側面

によって村野が私たちの知る建築家になったのではないか、ということだ。村野は、この市民館で得た成功と信頼をきっかけに、宇部の建築を継続的に手がけていく。しかし、戦時下という時代背景もあって、工場や関連施設がその大半を占めており、空襲で失われたものも多い。そんな工場建築の仕事の前に、村野はどのような思いで設計を進めたのだろうか。晩年に、市民館についてインタビューを受けた村野は、その後、次のような発言を残している。

「いや昔から私は、工場なんて『美術建築』だというんですよ。『美術建築』ということとはそこに人間がいるからということですよ。人間がいる以上は『美術建築』でなきゃいかんということですよ。なにも『美術建築』だからきれいにするというわけではない。工場だからきたなくするという考えに対して、それは間違いである、といいたかった。私も工場生活を知っているから。八幡製鉄にいたことがありますがね。どんなに工場生活が苦しいかわかる。人間不在ですからねえ、あんなのは。間違いですよ。しかし今日は逆になってきた。私のいった通りになってきた。それは人間がいるから、そこで労働するからそれは、『美術建築』という考えでやる、ということですよ。」「村野藤吾氏に聞く―宇部市民館のことなど」聞き手：長谷川堯『SPACE MODULATOR』No.52 一九七八年旭硝子

建築を学ぶ前の村野には、福岡県立小倉工業高校機械科を卒業後、八幡製鉄に技術工として務めた経験があった。宇部で設計を進める中、人間がそこで働いている以上、しかも苦しい生活であるからこそ、工場も美術建築なのだ、との思いを強くしたのではなかるだろうか。同時に、硬質な素材感と鈍い暗褐色の色彩をもつ工場建築の独特な姿にも惹かれたのだろう。こうして、宇部の工場建築は、村野にとって、自らが求める建築のあり方を考えるための根拠地になっていったのだと思う。宇部市民館は、その出発点にあった村野の矜持を今に伝える記念碑的な意味を持っている。

松隈 洋 京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。



1年を経過した板倉の仮設住宅

—地域のストックとなる復興住宅を目指して—

安藤邦廣

安藤邦廣

筑波大学芸術系 教授・建築家
 NPO木の建築フォーラム代表理事
 ㈱日本茅葺き文化協会代表理事
 1948年宮城県生まれ
 九州芸術工科大学芸術工学部環境設計
 学科卒業
 東京大学助手を経て1998年より現職
 ○著書「小屋と倉」2010・建築資料
 研究社／「民家造」2009・学芸出
 版社／など
 ○設計作品 板倉の家の住宅作品など
 ○受賞 2011.5日本建築学会賞(論文)

東日本大震災の被災者のための応急仮設住宅が建設されて1年が経過した。被災地のひとつ福島県では、木造の仮設住宅建設に積極的に取り組み、6000戸（1次公募5000戸、2次1000戸、公募県内の仮設住宅全体の37%）の木造仮設住宅を建設供給した。この木造仮設住宅建設の意義としては、地域の木材と大工等の職人の活用、木質環境による環境負荷の軽減、被災者の生活様式への適合、使用後の復興住宅への転用と再利用の4点があげられる。いずれも従来のプレハブの仮設住宅に欠けていた側面であり、地域による地域のための仮設住宅造りの取り組みといえる。この仮設住宅に入居が始まったのは今年の8月で、1年を経過した今、その取り組みの目的はどこまで達成されたのか、あるいは残された課題は何かについての検証が必要である。福島県で板倉構法による仮設住宅の建設に取り組んだ立場から、それらの点について考えてみたい。

地域の復興につながる木造仮設住宅

木造仮設住宅は県内の15の事業所に公募発注された。事業所の内訳は建設会社、工務店、大工組合、地域ビルダー、ログハウスビルダーである。応募資格は年間20戸以上の住宅供給実績があり、かつ県内に本店のある事業者であった。1次公募としては、これらの事業者が平均300戸余の仮設住宅を3ヶ月で建設したことになる。仮設住宅の面積は約10坪で一般の住宅の3分の1。それでも一般住宅100棟に相当する建設を短期間で成し遂げたことになる。この建設需要は地域社会に計り知れない経済効果をもたらしたことはいうまでもない。仮設住宅の建設費用はインフラ整備も含めて1戸あたり500万円。6000戸の木造仮設住宅は300億円の経済効果。これは確かに大きい。それだけではない。木造仮設住宅では15の多様な木造構法の提案が実現された。その内訳は在来軸組構法、木造パネル構造法、板倉構法、丸太組構法（ログハウス）であった。地域の建設業と製材業、木材加工業が連携して多様な木造構法を開発したのである。これまでも国のモデル事業などによって、地域木造住宅の開発が進められてきたが、その開発普及への効果は期待されたほどではなかった。その意味で、福島県での木造仮設住宅の建設は、これからの復興住宅建設に向けての地域木造住宅の開発普及の試金石となったといえる。木造仮設住宅建設で高い評価を得た福島県は、その後引き続き復興住宅開発のための公募事業を

実施し、8つのタイプの地域木造住宅が復興住宅として選定推奨されている。これは仮設住宅の建設によって経験を深めた地域の建築設計業、木材生産業、製材加工業、建設業、住宅設備関連業が震災復興という大きな目標を共有して、連携を図った結果である。これが木造仮設住宅建設供給のもうひとつの成果であり、これからの地域社会の復興の礎となることは間違いないといえる。

木の空間が被災者を守る

被災地の多くは東北の農漁村地帯で、ほとんどが伝統的な木造住宅に暮らし、しかも高齢者の割合が高い。また福島県では原発事故の復旧にめどが立たず、避難が長期化することが予測された。このようなことから、被災者の慣れ親しんだ木造で仮設を提供し、被災者の精神的負担をできるだけ軽減することがその目的のひとつであった。板倉の仮設住宅では、仮設住宅の狭く閉ざされている点を改善するために、大きな屋根をかけて軒を深め、縁側やデッキを設けて、開放的な間取りを構成した。また勾配屋根を利用してロフトを設けて、収納空間を確保した。戸外に開放された仮設住宅は近所付き合いが円滑に行なわれ、被災者が孤立化することを防ぐ上で大きな役割を果たしている。またロフトは狭く物で溢れた仮設を解消して、客を迎えることのできる余裕を与えた。家族や親戚が訪ねてきてもロフトで泊まることもできる。従来のプレハブ仮設と混在している仮設の団地では、板倉の仮設住宅が近所付き合いの場となっている例も少なくない。

仮設住宅の入居者数は平均3人程度で高齢者の割合が高い。板倉の仮設住宅に入居した高齢者の感想を尋ねると、自分の家に帰ってきたみたいで安らぐ。天井が高いので圧迫感がなく狭さを感じず、使い勝手が良い。このような意見は居住者の習慣に沿って避難生活を送ることの重要性を示している。

室内の居住環境については、四季を通じて温湿度を計測中である。今年の夏は入居後間もない時期であったが、板倉の仮設住宅でクーラーを使用している例は1割程度で、ほとんどがクーラーなしで、窓を開放して通風によって暑さを凌ぐことができている。東北地方の高齢者がクーラーを使うことを好まない傾向を考慮しても、プレハブ仮設ではほぼ100%使わざるを得ない状況と比べるとその差は大きい。板倉構法は厚板の調湿効果が



いわきニュータウン全景 弓なりに配置された板倉の仮設住宅群
 その先に木造の仮設住宅 正面の高台にはプレハブ仮設住宅が並ぶ



冬は日差しで暖かく、昼はこたつで十分 エアコンは使わない

大きく、そのことで体感気温を下げ、クーラーへの依存をさげることができる。また軒が深く屋根裏の気積が大きいことも、室温の上昇を抑えている。大きな屋根をかけることが住宅の基本的性能を大きく高めているといえる。

一方、冬期間には太陽高度が下がって縁側から陽光が室内奥まで差し込み、天気によれば昼間の暖房がいらないほど温かい。スギの厚板で構成される室内は日射による室温の立ち上がり早い割には、夕方室温低下が緩やかである傾向が見られる。結果として冬の晴天率の高い福島県いわき市の板倉の仮設住宅では、冬温かく、備え付けのエアコンは使わず、こたつと夜間に灯油のヒーターですごしている例が多い。単なる断熱性だけではない、木材の持つ温湿度を安定させる優れた働きに改めて驚かされる。今後入居後1年間の測定結果の分析によって、このことをより明確に検証することができる。

増改築で自分の家になる

仮設住宅では最低限度の広さと設備が用意される。その後は入居者自らで改善することができる。その後は入居者自らで改善することができる。それが復興の第一歩となることを願うからである。軒下に縁側やデッキを備えたので、それを抛り所に増改築が進むことが予測された。この縁側の利用法としては、洗濯物や布団の干場としての利用が圧倒的に多い。天気の良い日には、軒下の全面に洗濯物が下がり、縁側は布団で埋められる。また、縁側で茶飲み話をする光景もよく見られる。特に高齢者は玄関に回らずに縁側から声を掛け合って互に行き来している。格好の近所付き合いの場となっているといえる。縁側の改造はまずそこによしずをかけることから



縁側は茶飲み場 その前につくられた物置と花壇と菜園



2棟の間につくられた物置兼作業場

始まる。夏に日よけと視線を遮る効果大きい。東西の妻壁の前にはあさがおやゴーヤのカーテンが出来上がる。さらに縁側に前に拡張し、庇をのばす改造がいくつか始まり、子供の多い家族ではその遊び場として利用している。

工事の端材を希望者に分けたことでその材料で棚や縁台を外回りに設置している例もある。板倉の仮設住宅は軸組だけでなく壁が板張りなので、素人でもどこでも簡単に取り付けができる。妻側は隣との間隔が3m前後で、屋根のけらばが1mずつ出ているので、雨があたらない。その隙間に簡単な屋根をかけると立派な物置や作業場が出来上がる。外に物置や作業場ができると、庭に手をかけて菜園や花壇が広がる。こうした改造は建物本体をいためない限り規制はされていない。隣通しの了解のもとに工夫している。

生活環境を自ら改善することは、仮設住宅での避難生活から立ち上がって能動的に生活を始めるその第一歩である。自らの生活に合わせて必要な物を整えることが無理なくできれば、不十分な仮設住宅の改善のみならず、これからの復興に自信を取り戻すことにつながるのではない。

このようにして板倉の仮設住宅は、1年を経て木の町としての風景をつくりつつある。10年単位での避難生活の長期化が現実になってきた福島県では、木造仮設住宅については、そのために基礎等を造り変える対応が必要となってきた。またその移設の検討も始まった。木造の仮設住宅ではその良好な居住性が評価されたが、今後移築再利用の点での技術的な課題が検証される。それを初めて、木造の仮設住宅の真価が問われ、これからの復興住宅に重要な指針を与えることができる。

⑤壁パネルの落とし込み
 レッカーを使ってスムーズに建て込まれる



⑥小屋組 棟木を掛失ではめこむ



⑦1寸厚の化粧野地板を棟木、母屋、桁に直張りする



⑧4寸角のたる木の取り付け



⑨たる木の間に断熱材として茅(スキ)を敷き詰める



⑩建て方は朝7時から夜8時まで続けられた



⑪床は4寸角の大引の上に1寸の本実板を張る
 その間に断熱材としてもみ殻を敷き詰める



⑫上様式 上棟を喜ぶ大工たち
 大工90人が屋根にのってもびくともしない その重さ7トン
 はからずも荷重試験となった





敷地は大阪市内の密集した地域に位置する。クライアントの要望である終の住処として安らぎを与える空間として木造で計画した。準防火地域に指定されているが、木造であることを感じさせない外観とするために金属板で覆い防火性能を高めた。外壁にはライジングクを玄関にはコールテン鋼を使用し、内部に入ると一変して木造を感じさせるように木の無垢材や左官などを使用し経年変化により深みを増すように配慮した。プラン的には2つの中庭を配置し光や風を取込み公私を分ける空間としている。また緑やビオトープのある中庭として四季を感じる庭となっている。

所在地：大阪市旭区
用途：専用住宅
竣工：2012.6
構造規模：木造
地上2階建
敷地面積：224.96㎡
建築面積：151.50㎡
延床面積：210.33㎡
写真：絹巻 豊



敷地は建蔽率30%、南面道路とは1m程度の高低差がある。まず、道路に面した南に車庫をとり、その上に和室を設けた。中庭をはさんで居間、食堂と日常的生活空間としている。中庭の空間を設けた事で近隣の視線を気にせず、居間はガラス張りとし、庭と一体感をもたせる事が出来た。開放感のある眺めの良さと移ろいを肌で感じ、日々刻々の変化は生活に潤いをもたらす事と思う。和室は茶室ではないが、茶の湯の要素をとり入れ、生活を遊び心で楽しむ趣向とした。中庭から飛び石を伝い露地の風情を味わう仕掛け、腰掛待合風の仕掛け、にじり口をくぐる仕掛け、窓の仕掛け等である。花鳥風月を身近な友として暮らせる飽きのこない住宅である。

所在地：奈良市
用途：住宅
竣工：2009.8
構造規模：木造一部RC造
地下1階 地上2階建
敷地面積：404.40㎡
建築面積：121.00㎡
延床面積：206.16㎡
写真：松村芳浩

INFORMATION

Sponsorship

<p>建築士会からのお知らせ</p>

二級建築士 受験対策講習会
設計製図模擬テストⅠ、Ⅱ　8/26、9/2

設計製図模擬テストⅠ、Ⅱ
日程　Ⅰ：8月26日(日)、Ⅱ：9月2日(日)
時間　9：30～16：30
会場　大阪府建築健保会館
定員　各回25名(申込先着順)
受講料　各回とも建築士会会員(準会員)13,000円　一般15,000円
問合せ　本会事務局
申込・詳細　http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index2.html

一級建築士 受験対策講習会
設計製図 課題解説+エスキースコース　8/26
設計製図 模擬テストⅠ～Ⅲ　9/22、9/29、10/6

設計製図 課題解説+エスキースコース
日程　8月26日(日)
時間　9：00～12：00 課題解説 13：00～17：00 エスキース
会場　大阪府建築健保会館
定員　40名(申込先着順)
受講料　会員10,000円、一般12,000円
設計製図 模擬テストⅠ～Ⅲ
日程　Ⅰ：9月22日(土)、Ⅱ：9月29日(土)、Ⅲ：10月6日(土)
時間　9：00～15：30(製図実習) 16：30～18：30(図面講評)
会場　大阪府建築健保会館
定員　各回40名(申込先着順)
受講料　各回とも会員・準会員　12,000円　一般15,000円

※複数コースセット受講の場合、割引があります。詳細は本会HP申込ページでご確認下さい。

問合せ　本会事務局
詳細　http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index.html

平成24年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会（一般診断法講習）8/21・9/25・10/23・11/27・12/18 CPD5単位

日程　8月21日(火)、9月25日(火)、10月23日(火)、11月27日(火)、12月18日(火)
時間　11：00～16：30
会場　大阪YMCA国際文化センター
定員　いずれも200名(先着順かつ希望順の申込受付・定員になり次第締切)
受講料　会員5,000円　会員外9,000円
テキスト代　7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

日程　8月21日(火)、9月25日(火)、10月23日(火)、11月27日(火)、12月18日(火)
時間　11：00～16：30
会場　大阪YMCA国際文化センター
定員　いずれも200名(先着順かつ希望順の申込受付・定員になり次第締切)
受講料　会員5,000円　会員外9,000円
テキスト代　7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

建築士法にもとづく「建築技術講習会」平成24年度 第3回～コンクリート～7/20 CPD3単位【統括】

建築士法第 22 条の 4 第 5 項に基づき、平成 24 年度第 3 回目の建築技術講習会を実施します。本講習会は年 6 回のシリーズで、効率よく広範囲の学習をしていただけるよう、各回の内容が異なります。

日時　9月28日(金)　13：30～16：15
会場　大阪府建築健保会館6階ホール 大阪市中央区和泉町2-1-11
内容　・RC造ひび割れの原因と対策 ・RC構造の高さへの挑戦
定員　150名(定員に達し次第締切)
受講料　会員3,000円　一般5,000円(テキスト代含)

60周年記念事業
第10回神戸ウオーカー
～小野・浄土寺を見る～
8/18 CPD6単位(予定)

今回は今までのウオーカーとは違いバスでの移動になります。少し足の便が悪い場所ですが、貸切バスで問題は解消。国宝の浄土堂は天竺様の堂宇としては国内唯一のものです。他にも重要文化財の八幡神社も拝観します。

日時　8月18日　9：30～受付　10：00出発
集合　大阪梅田近辺(決定次第連絡)
参加費　5,200円(昼食・入場料・バス代・資料代・保険代を含む)
定員　先着50人
行先　キリンビアパーク神戸見学～浄土寺～好古館(旧小野小学校講堂)
コーディネーター　森田茂夫(本会理事)
※昼食はキリンビアパークレストランにて。工場内のピオトープも見学予定。

日程　Ⅰ：9月22日(土)、Ⅱ：9月29日(土)、Ⅲ：10月6日(土)
時間　9：00～15：30(製図実習) 16：30～18：30(図面講評)
会場　大阪府建築健保会館
定員　各回40名(申込先着順)
受講料　各回とも会員・準会員　12,000円　一般15,000円

※複数コースセット受講の場合、割引があります。詳細は本会HP申込ページでご確認下さい。

問合せ　本会事務局
詳細　http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index.html

若手建築士、建築を学ぶ学生を主な対象に、コミュニケーション能力を向上させるセミナーを行います。

講師には、コミュニケーション研究・教育工学家がご専門の牧野由香里教授（関西大学）をお迎えし、ミニ講義とグループワークを通じて、対話を可視化する論理モデル「十字モデル」について、その理論的背景から実践での応用までを、楽しく徹底的に学びます。
①自分の考えをハッキリ伝えられる。
②相手の話がスッキリ理解できる。
対話の可視化には以上 2 点のほか、様々な利点が考えられます。
日時　8月26日(日)　13：30～17：00（13：00より受付開始）
場所　大阪府建築士会会議室
参加費　会員1,000円、学生会員500円、一般1,500円
定員　25名(申し込み先着順)
※参加費には体験材料代を含みます。
※参加証について
◇申込書を参加証とします。当日会場に

ご参加ください。
◇記載の注意事項を厳守して下さい。

<p>(宝くじ売り場御堂筋沿い)</p>
定員　40名
参加費　シニアサロン会員2,500円 会員3,000円　会員外3,500円(入館料、ピザ代含む)
懇親会　会場未定(梅田界隈)、費用は 3,000円程度

建築士のためのお茶会勉強会
8/28・29

建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。
日時　8月28日、8月29日
18：30～20：30頃まで(原則毎月第3水曜日及び第4火曜日ただし今月は第3→第5水曜に振替)

場所　よみうり天満橋文化センター
費用　年会費6,000円+1回2,500円(年会費はキャンセル時の水屋料などのため。但し途中入会の場合の年会費は年度末までの月数× 500 円となります。)

先生　藤井宗照(そうき)先生

問合せ　本会事務局

60周年記念事業
地震を知って震災に備える
9/1 CPD2単位

防災の日に地球規模での地震学に基づいたお話をお伺いします。近い将来発生が予測される巨大地震に備えるために今、建築士として何ができるのか、何をしなければならぬか、地球規模での視点に立ち日本列島が世界的にも珍しい条件を備えた場所であるという事を再認識し、さまざまな視点から日本列島の変動帯としての特徴を今一度ふり返ってその答えを探っていきます。市民の方も貴重なお話を聞くことができると思いますので、多数ご紹介の上、是非お越しください。

震災に備えるアイデア「記憶の継承」作品展同時開催
日時　9月1日(土)　14：00～16：00(開場13：00)
場所　大阪 ユビキタス協創広場CANVAS
大阪市中央区和泉町2-2-2
講師　尾池　和夫
日本ジオパーク委員会委員長
前京都大学総長　理学博士

定員　150名　参加費　500円
※参加申込をされた方は、講演会当日直接お越しください。

シニアサロン第45回例会
「ヴォーリスの六甲山荘を見る」
9/20 CPD2単位(予定)

□事務局夏季休暇のお知らせ
8月13日(月)～15日(水)は休ませていただきます。

□2012年版会員名簿の掲載事項について
9月刊行予定の会員名簿につきましては、掲載事項が①氏名②勤務先名③勤務先住所・電話・Fax ④建築士級別（正会員のみ）となっております。つきましては、A. 氏名以外（②～④）を掲載しない。B. 連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。のいずれかを希望される場合は、8月17日(金)までに Fax または 郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします（既にご連

絡をいただいている場合は不要です）。
□ホームページへの会員名簿掲載事項について
①氏名②建築士級別（正会員のみ）③CPD・専攻建築士登録をホームページに掲載する予定としております。ホームページへの掲載に支障がございましたら、8月17日(金)までに Fax または 郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします。

昭和初期の電鉄会社によるまちづくり第5回／阪神電気鉄道
10/4 CPD2単位

阪神電気鉄道の沿線住宅地の開発やまちづくりについて、これまでの事業のあゆみとともに、写真や各種資料を交えながら紹介します。
日時　10月4日(木)　18：30～20：30

場所　大阪府建築士会内会議室
テーマ　「阪神電鉄の沿線開発について」
講師　坂井一弘(阪神電気鉄道株不動産事業本部開発営業室課長)

定員　30名　会費　500円(資料代等)
※参加申込をされた方は、勉強会当日直接お越しください。

60周年記念事業
地震を知って震災に備える
9/1 CPD2単位

第8回海外研修旅行
「南イタリア～地中海文化と世界遺産都市を巡る」
11/1～11/9

イタリアの南部の特徴的な各都市を巡ります。
日程　11月1日深夜発～11月9日帰り(6泊9日)

行先　ナポリ・ボンベイ・ボジターノ・アマル・フイ・レッチエ・アルペロ・ベッコ・マテラ・ローマ等

参加費　10人以上の場合　300,000円
20人以上の場合　240,000円(全食事・専用バス代・日本からの添乗員・現地ガイド代は含みます。飛行機はエミレーツ航空使用予定。別途燃油サーチャージ・空港諸費用54,000円余必要)

最少催行人員　10名
締切　8月31日(但し場合により早めに締切の可能性あり)

申込　事務局に申込書とパスポートコピーをお送り下さい。詳細は別紙パンフレット(申込書付)をご覧下さい。

事務局からのお知らせ

□事務局夏季休暇のお知らせ
8月13日(月)～15日(水)は休ませていただきます。

□2012年版会員名簿の掲載事項について
9月刊行予定の会員名簿につきましては、掲載事項が①氏名②勤務先名③勤務先住所・電話・Fax ④建築士級別（正会員のみ）となっております。つきましては、A. 氏名以外（②～④）を掲載しない。B. 連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。のいずれかを希望される場合は、8月17日(金)までに Fax または 郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします（既にご連

7月1日より本会ホームページが新しく生まれ変わりました。この建築人のINFORMATION情報も本会ホームページに掲載され、ホームページからも参加申し込みができるようになりました。（一部の催し企画を除く）是非、本会ホームページへアクセスをしてみてください。

【大阪府建築士会ホームページ】 http://www.aba-osakafu.or.jp/

Others

その他のお知らせ

大阪ガス 住宅設計アワード 2012
—「ガスのある環境にやさしい住まい」—

◆ 本会の催し参加申込方法

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員 No、勤務先、参加証送付先住所、同電話 & FAX 番号（自宅又は勤務先）を明記の上、事務局までお送り下さい。

問合せ・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

平成24年度建設リサイクル法説明会
(第1回)

主催　大阪府内建築行政連絡協議会建設リサイクル部会（大阪府と建築主事を置く府内 17 市で構成）

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」のほか、建築物等の解体等作業に伴うアスベスト関係法令等に関する説明会を開催します。

日時　8月21日(火)　13：30～16：30(受付開始13：00)

会場　大阪府庁新別館北館4階多目的ホール
定員　328名

内容　大阪府社会福祉会館5階ホール
大阪市中央区谷町7-4-15

定員　100名(先着順受付、定員に達し次第締切)
参加費　一般28,350円(税込)
申込締切　8月22日(水)

問合せ　NPO 法人住宅長期保証支援センター講習会担当
Tel.06-6941-8336

E-mail:info@hws.or.jp
http://www.hws.or.jp

今どきの建設工事現場は忙しい！
どこも少数配員で、若手技術者は品質をじっくりチェックして学習する余裕もないのが実情です。長年にわたり現場指導を行ってきた著者によるわかりやすい解説で、知っておく

第35回<プロのノウハウ>講座
「現場直伝!躯体工事の100ポイント」

今どきの建設工事現場は忙しい！
どこも少数配員で、若手技術者は品質をじっくりチェックして学習する余裕もないのが実情です。長年にわたり現場指導を行ってきた著者によるわかりやすい解説で、知っておく

べきポイントを効率よくマスターしましょう。

日時　8月29日(水)　18：00～20：00
会場　社大阪府建築士会
講師　中川徹(元・清水建設)

定員　40名(先着順)
受講料　一般2,000円
テキスト　「現場直伝!躯体工事の100ポイント」※当日販売特価@2,000円
申込・問合せ　(社)日本建築協会
Tel.06-6946-6981

E-mail:jigyoka@aaaj.or.jp
詳細&申込方法は、http://www.aaaj.or.jpをご覧ください。

（一社）日本風工学会では2011年に「強風災害の変遷と教訓」を出版し、これまでの強風被害の特徴と被害低減の取り組みをまとめました。今回、この出版物をテキストとして、各分野の専門家が強風被害を分かり易く解説する風災害フォーラムを大阪で開催します。

主催　（一社）日本風工学会
日時　10月10日(水)　13：00～17：00
会場　大阪市立大学文化交流センター
大阪市北区梅田1-2-2-600
大阪駅前第2ビル6階

講師　九州大学 前田潤滋教授はじめ14名
定員　100名(先着事前申し込み制)
参加費　4,000円(テキスト代、前払い制:当日テキストをお渡しします)

申込　日本風工学会風災害研究会
幹事　野田稔

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門)
Tel/Fax.088-656-7323

E-mail:wind_disaster@jawe.jp

明治以降に建てられた近代建築や建造物を幻燈（スライド）で学び、現地探訪等もふくめて建築の立場から近代日本の歴史を探る講座です。
期間　9月～12月(計8回)
曜日　第2、第4火曜日
時間　13：30～15：00
会場　葉業年金会館

講師　柴田正己(明治建築研究会代表)
定員　約30名
受講料　12,000円(8回)
※現地探訪の交通費等は別途実費負担
問合せ・申込　総合企画 濤標
Tel.06-6944-0869

主催　（一財）建築環境・省エネルギー機構
日時　9月12日(水)　10：00～18：00
会場　大阪国際会議場1202
大阪市北区中之島5-3-51

講師　自立循環型住宅開発委員会第3フェーズの研究に係わった、国・公共の研究機関・大学の先生の有識者など。

受講料　12,000円(テキスト代含)
定員　80名
問合せ・申込　（一財）建築環境・省エネルギー機構
Tel.03-3222-6946

主催　NPO法人住宅長期保証支援センター
日時　8月29日(水)　9：25～18：05(予定)
受付　9：00開始

会場　大阪府社会福祉会館5階ホール
大阪市中央区谷町7-4-15

定員　100名(先着順受付、定員に達し次第締切)
参加費　一般28,350円(税込)
申込締切　8月22日(水)

問合せ　NPO 法人住宅長期保証支援センター講習会担当
Tel.06-6941-8336

E-mail:info@hws.or.jp
http://www.hws.or.jp

今どきの建設工事現場は忙しい！
どこも少数配員で、若手技術者は品質をじっくりチェックして学習する余裕もないのが実情です。長年にわたり現場指導を行ってきた著者によるわかりやすい解説で、知っておく

講習会「コンクリート充填鋼管構造設計ガイドブック」(大阪開催)

本講習会はコンクリート充填鋼管構造設計ガイドブックの内容について説明を行います。

日時　10月5日(金)　13:00～17:00
会場　大阪科学技術センター4階401号室
大阪市西区靱本町1-8-4

定員　130名
受講料　大阪士会会員10,000円(テキスト代含)
問合せ　(社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

風災害フォーラム「強風災害の変遷と教訓」
～北関東竜巻の衝撃

（一社）日本風工学会では2011年に「強風災害の変遷と教訓」を出版し、これまでの強風被害の特徴と被害低減の取り組みをまとめました。今回、この出版物をテキストとして、各分野の専門家が強風被害を分かり易く解説する風災害フォーラムを大阪で開催します。

主催　（一社）日本風工学会
日時　10月10日(水)　13：00～17：00
会場　大阪市立大学文化交流センター
大阪市北区梅田1-2-2-600
大阪駅前第2ビル6階

講師　九州大学 前田潤滋教授はじめ14名
定員　100名(先着事前申し込み制)
参加費　4,000円(テキスト代、前払い制:当日テキストをお渡しします)

申込　日本風工学会風災害研究会
幹事　野田稔

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門)
Tel/Fax.088-656-7323

E-mail:wind_disaster@jawe.jp

明治以降に建てられた近代建築や建造物を幻燈（スライド）で学び、現地探訪等もふくめて建築の立場から近代日本の歴史を探る講座です。

期間　9月～12月(計8回)
曜日　第2、第4火曜日
時間　13：30～15：00
会場　葉業年金会館

講師　柴田正己(明治建築研究会代表)
定員　約30名
受講料　12,000円(8回)
※現地探訪の交通費等は別途実費負担
問合せ・申込　総合企画 濤標
Tel.06-6944-0869

主催　（一財）建築環境・省エネルギー機構
日時　9月12日(水)　10：00～18：00
会場　大阪国際会議場1202
大阪市北区中之島5-3-51

講師　自立循環型住宅開発委員会第3フェーズの研究に係わった、国・公共の研究機関・大学の先生の有識者など。

受講料　12,000円(テキスト代含)
定員　80名
問合せ・申込　（一財）建築環境・省エネルギー機構
Tel.03-3222-6946

今どきの建設工事現場は忙しい！
どこも少数配員で、若手技術者は品質をじっくりチェックして学習する余裕もないのが実情です。長年にわたり現場指導を行ってきた著者によるわかりやすい解説で、知っておく

講習会「コンクリート充填鋼管構造設計ガイドブック」(大阪開催)

本講習会はコンクリート充填鋼管構造設計ガイドブックの内容について説明を行います。

日時　10月5日(金)　13:00～17:00
会場　大阪科学技術センター4階401号室
大阪市西区靱本町1-8-4

定員　130名
受講料　大阪士会会員10,000円(テキスト代含)
問合せ　(社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

今どきの建設工事現場は忙しい！
どこも少数配員で、若手技術者は品質をじっくりチェックして学習する余裕もないのが実情です。長年にわたり現場指導を行ってきた著者によるわかりやすい解説で、知っておく

東洋陶磁美術館
開館30周年記念企画展
「白磁を飾る青—朝鮮時代の青花」

500余年の長きにわたる朝鮮王朝時代に製作された「青花白磁」約40点をもとに、同時代の漆器なども合わせて展示し、独自の美を創出し発展を遂げた「青花」の魅力を紹介します。さらに、本展に併せて、館蔵品の平常展においても数多くの青花を展示します。

会期　8月4日(土)～10月14日(日)
時間　9：30～17：00(入館は閉館30分前まで)

休館日　月曜日(9/17、10/8は開館)、9/18、10/9

観覧料　一般600円

会場　大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26

問合せ　Tel.06-6223-0055
http://www.moco.or.jp

広がってゆく、スマートハウス。 そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の約80%*をまかなえる「ダブル発電」が、家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。



ガスで実現するスマートハウス **ガ、スマート!**

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37
TEL：06-6586-3241 FAX：06-6586-3259 ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

理事会報告 文責 本会事務局

日時：七月十八日(水)十六時～十七時三十分
場所：本会議室

出席：理事四名(委任六名)、監事二名
名誉会長、顧問、相談役他九名

(1)入退会の承認
入退会承認時に記載されている退会者について、理事・事務局から撤回を促す努力をする。

(2)会計報告
今年度は木造耐震講習会による参加者増が期待されるが、全体として減収傾向は否めない。引き続き委員会活動及び管理費等において支出減に努める。

(3)新組織体制の再確認
会長方針として、公益移行を機に委員会構成等を白紙から見直すこととしているが、理事委員各位に徹底されていない。特に研究会・同好会等の所在が明確でない。あらためて旧研究会等の必要性について期限を定めて申請書の提出をお願いし、正副会長会議で諮る旨を確認した。

(4)HP等の刷新について
HPの最新ページのパナーボタンについて、各委員会から設置の要望を聞く。パナーボタンの必要性等を明記して情報委員会に提出する。特に現在設置されていないもので年間を通じて必要性が確立している「CPD専攻」「建築表彰」「耐震診断改修講習会」については、もれなく設置をお願いする。

(5)大阪建築コンクリートの隔年実施
健全財政への方策の環として、本会が単独主催する建築コンクリートを抜本的に見直す。開催を隔年とし作品ジャンルは問わない。審査員を7名から5名に減数、応募はオープン化して応募料に会員と一般の格差を設ける。約二〇〇万円／年の節減となる趣旨を説明し、承認された。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(二)
建物のデザイン

文 橋本頼幸

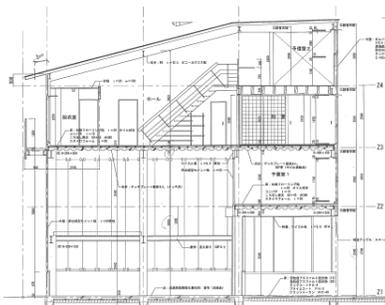
先月からリニューアルした「建築相談」コーナーは、建築相談室で受けた相談内容や相談員が感じたことなどを建築相談員が順番に話題提供します。第二回は竹田敦子さんに話題提供いただきました。

デザインに優れていても住みにくい家はたくさんあります。依頼者・建築主に問題点を説明して理解してもらい進めていくことは当然のことですが、なかなか難しいものです。自然素材を使用するにあたっては、選び方の注意点や経年変化など気をつけて説明をし、理解していただけて、構造についてなどは説明しても伝わらない事が多いと思います。

一方で、設計に対する思いが強すぎ、デザインや流行に走って自分に都合の良いように建築主に説明しているかもしれません。これまでの相談事例を挙げてもらいました。

(一) プライバシーを確保したい。

(二) 光熱費の改善をしたい。



↑屋根裏がほとんど無く屋根直下が暑くなった
梁スパンが大きいたわみが生じ排水勾配が変わった↓



主からの要望をかなえようとして説明不足になっていた、説明していたとしても十分な理解を得られていなかったりすることがあります。これらの相談例は、現代の住まいではよくある要望であり、起こりがちなことです。気をつけたものです。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

大阪南部に位置する泉南郡岬町。北側には大阪湾を望む形で淡輪海水浴場が広がっている。そして海岸の西側に位置する施設が大阪府立青少年海洋センターだ。

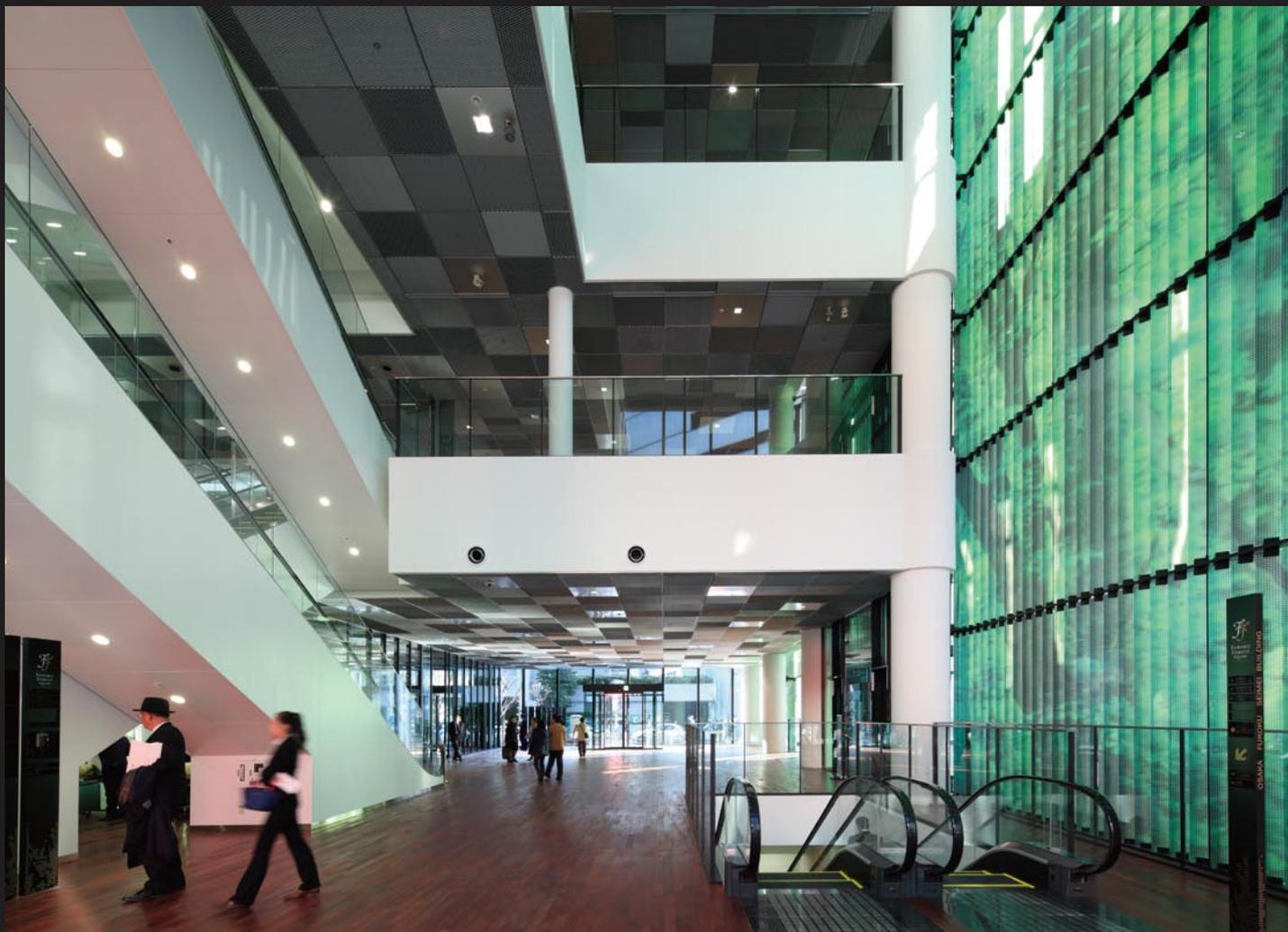
用途は青少年宿泊研修施設。基本構想は横総合計画事務所、設計は大阪府管轄計画課・坂倉建築研究所大阪事務所が担当。施設竣工までは長い道のりで、計画策定は一九六八年に始まり、開設が一九七五年七月二〇日。およそ七年半の期間を要している。

海上建築物の外壁は耐候性高張力板の全溶接仕上。当時、外壁での鋼板利用はあまり例がなく、苦労が窺い知れる。三十七年経った今も現役で、海岸から突き出た研修棟の存在に圧倒される。

日本において「海」を知ることとても大切なことで、それがこの青少年センターの大切な意義でもある。参考 新建築1976(今回参考とした新建築のバックナンバー)は、建築士会の蔵書を利用しました。この蔵書は、会員全員が利用できる貴重な存在です。

建築人 8 2012

監修 社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表 米井 寛
編集人 荒木公樹 橋本頼幸
牧野高尚
事務局 山本茂樹 母倉政美
印刷 中和印刷紙器株式会社



大阪富国生命ビル 清水建設

都市再生特別地区制度の活用における本プロジェクトの特徴は、地下街ネットワークの活性化や防災拠点としてのアトリウム「フコク生命（いのち）の森」の創設、賑わい・教育・文化・芸術振興を目的とする関西3大学（大阪大学・京都造形芸術大学・学校法人立命館）との産学連携施設創設のほか、国際的に開かれたデザイナー選定プロセスによるフランス人建築家ドミニク・ペロー氏の選定などにより構成される。

形態上の大きな特徴である末広がりな低層部は、外壁ラインを近隣の建物に揃えるなど、周辺環境の地形に共鳴し、動きを持ちながらも周囲と調和している。この建物のシルエットは森林の大樹の形態に相似しており地面に近づくにつれて、樹皮のように大きな鱗状の彫刻を施した様相を示し、いくつもの鏡が、空や周辺環境のさまざまな色をファサードに取り込むために象眼され、頂部よりも足元を強調している。人が触れ合う場所、低層部に建物の存在感、魅力、ランドマークとしての特質を持つてくることは、ジェネラルまたはヒューマンな考え方である。

末広がりな低層部は、内部にアトリウムを包含する。この自然光で満たされる内部空間は、地下街、地下鉄、地上のロビー、周囲の店舗、低層部の大学などを行き交う人びとの広場となる。このアトリウムには、フォレストウォールと呼ぶ垂直な自然の要素を挿入した。これは見る角度や距離によって見え方が違ったり、太陽光の変化によって多様な表情を持つ。

撮影：古明地賢一

■建物データ
 建築主：富国生命保険相互会社
 設計：清水建設株式会社
 デザインアーキテクト：ドミニク・ペロー・
 アーキテクチュラル
 施工：清水建設株式会社

所在地：大阪市北区小松原町2-4
 用途：事務所・商業施設・学校
 構造規模：S造（一部SRC造）
 地下4階・地上28階
 敷地面積：3,889.06㎡
 延床面積：68,491.19㎡

